

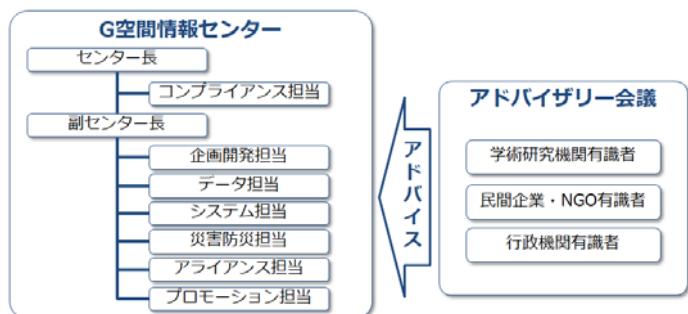
TOPICS

アドバイザリー会議について

G空間情報センターでは、G空間情報の流通、研究開発や普及啓発などの活動を推進するにあたり、広く関係機関、学識経験者、企業等の意見を反映させるため、「G空間情報センターアドバイザリー会議」（以下、「アドバイザリー会議」という）を設置しています。産学官の各分野でG空間情報の活用について深い知見を有する7名の有識者にアドバイザーとして就任いただき、下記についてアドバイザリー会議において助言、提言をいただいている。

- (1) G空間情報センターの運営体制に関すること
- (2) G空間情報センターにおいて取り扱う情報や普及活動など事業活動に関すること
- (3) その他G空間情報センターの運営に関すること

現在、アドバイザリー会議で出された意見・アイデアを踏まえ、G空間情報センターが自立運営を行っていくための具体的な取り組みについて、実施に向けた準備を進めています。



G空間情報センターでは、利用者の皆様からも広く意見を募集しています。G空間情報センターで取り扱ってほしい情報、公開してほしい情報など、G空間情報に関する様々なご意見、ご要望、ご質問について、G空間情報センタートップページ右上にある「お問い合わせ」よりご連絡ください。

お知らせ

- 2017.11.24 G-spatial information Center news letter Vol.4
- 2017.11.17 【公開】G空間情報センターニュースレター(2017年11月)を公開しました。
- 2017.11.10 GITJA-JAPAN第28回カンファレンスでの講演
- 2017.10.30 【お詫び】ダウンロード障害復旧のお知らせ

データ公開情報

- 2017.12.11 【公開】松江駅構内人流センサデータ、2017年11月分を公開しました(提供:一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会 人流解析チーム)
- 2017.12.06 「将来人口・世帯予測プログラム」操作マニュアル:修正版(バージョン1.3)アップのお知らせ(提供:国土交通省 国土技術政策総合研究所)
- 2017.11.16 【公開】新宿駅周辺屋内地図オープンデータを公開しました(提供:国土交通省 政策統括官)
- 2017.11.06 【公開】松江駅構内人流センサデータ、2017年10月分を公開しました(提供:一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会 人流解析チーム)

お問い合わせ

G空間情報センター

Website <https://www.geospatial.jp>
E-Mail info@geospatial.jp

コンテンツ紹介

Pick UP !! “長野県_CS立体地図”

長野県林業総合センター

「CS立体図」は、長野県林業総合センターが考案した微地形表現図です。長野県林務部が実施した航空レーザ測量データによる0.5mメッシュDEMを使用して作成しました。位置情報付き画像ファイルですので、地理情報システム（GIS）等すぐにご利用いただけます。

なお、本データは大容量のため、ダウンロードする際にはご注意ください。

■データ仕様・価格

- 旧市町村毎にファイルを作成しています
- 座標参照系はJGD2000VIII
- 位置情報付き画像ファイル（TIF形式ファイル及びワールドファイル）



※写真はサンプル画像です。一部提供できない地域があります。

注目の新規登録データ

新宿駅周辺屋内地図オープンデータ

国土交通省が実施している、「高精度測位社会プロジェクト」の実証実験において作成した新宿駅周辺の屋内地図です。実証実験に用いた屋内地図のうち、通路や部屋の範囲などの基盤となる地図、歩行空間ネットワークデータ、トイレ・エレベータ等公共設備POIのデータを公開しています。

<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/mlit-indoor-shinjuku>

G空間情報センター活用Q&A

Q) G空間情報センターのサイトで有償データを登録・販売する方法について教えてください。

A) G空間情報センターでは、無償・オープンデータの登録・公開だけでなく、有償データの登録・販売ができます。G空間情報センターでは、有償データの保有者に代わってデータ購入の手続き（見積もり、決済手続き）及び購入者への納品を支援しております。有償データの登録・販売のための手続き・手順を紹介いたします。

手順その1：販売データの概要及び販売方法を決める

G空間情報センターのサイトにて有償データのお見積り書を発行するためには、対象とするデータの内容だけでなく、販売の単位（空間的・時間的範囲）や単価（利用数量による変動率を含む）、そして販売結果の報告方法、入金処理のタイミングなどの運営方法を決定する必要があります。

手順その2：販売するデータをG空間情報センターに登録する

販売データの概要及び販売方法の詳細の決定後、G空間情報センターに販売データを登録します。（有償データの販売実績は定期的にデータ保有者に報告されます）

販売方法や運営方法、及び、販売データの登録など、G空間情報センター運営スタッフがサポートいたします。データ販売の新たなチャネルとしてもG空間情報センターをご活用いただけますので、お気軽にご相談ください。

センター運営担当者レポート

▶ 現状報告

G空間情報センターが運営を開始してから早一年。徐々にデータセット数も増えてまいり、ついに昨年末1,000データセットの大台に乗りました。

センターに登録されているデータでは、地震の波形・震度や津波の浸水深、微地形表現図の赤色立体地図やCS立体図等を多くの皆様にご利用いただいております。また、アプリケーションでは、将来人口・世帯予測ツールが常に人気のデータセットのトップになっており、様々な計画策定等にご活用いただいております。この将来人口・世帯予測ツールを活用した計画策定のショーケースを掲載いたしましたので、是非ご覧いただきたいと思います。

▶ 今後の対応

年度末までに、地方自治体のオープンデータを収集・登録し、2,000データセットを目指します。また、データのみならず、利活用事例のショーケースも徐々に充実させていきます。

最後に、「こんなサービスがあったらいいなあ…。」等のご要望やご意見等、どしどしお寄せいただきたいと思います。